

④ 若宮社の百手祭

～災いを払い、福を呼ぶ百手の鬼の的射り！～

若宮社は、氏子 59 戸、神社の催しや催事をつかさどる氏子は 6 班に編成されて、それぞれ 1 年間担当する。青竹を切り出し、藁を編んで、弓、矢、的を作り、氏神様への供物の準備など一切を男衆がする。大根と塩、榊と神酒一対をそなえる。当日は、朝早く本庄神社の神官が訪れ、円座になった氏子の前でお払いをし祝詞をあげる。続いて「頭渡し」と呼ばれる式がある。これで前年から当年へ当番が移る。円座の中心には、2 センチぐらいに輪切りした生の大根と塩、おこわが盛られ、神酒を回し飲みながら渡し終わるとみんな境内へ移る。それぞれ、弓、矢を手に前年の氏子が一番矢を放って直径 40cm 程の「的」に、次々に矢を放ってうまく命中すると歓声があがり、地区民には災いがふりかからないといわれる。